

特別企画「新学会の展望」SP1-2 新学会の役割と今後の学術展望

四ノ宮成祥

国立感染症研究所・客員研究員／元防衛医科大学校長

2004年の分裂以来別々に活動してきた日本高気圧環境・潜水医学会（JSHUM）と日本臨床高気圧酸素・潜水医学会（JACHOD）が合併し、新学会である日本高気圧潜水医学会（JUHMS）が発足した。高気圧酸素治療（HBO）並びに潜水医学を主題とする学会が分裂した経緯やその後の歩みについては歴史的な振り返り検証が必要であることは論を待たないが、一方でここ数年に亘る両者の歩み寄りの努力の結果として、両学会が再統一して新たな歩みを始めることに繋がった意義は非常に大きい。本シンポジウムでは、新学会の発足を未来志向の観点から捉え、JACHODの副代表理事としてその活動を直接見てきた演者が、JACHODにおける研究・臨床能力の強みを新学会の展望にどのように生かせるのかといった視点を中心に論じてみたい。

JACHODはJSHUMに比して学会の規模は小さく、広範な研究課題や臨床的問題を解決するには不向きであるが、一方で経験豊富な臨床救急医を中心としたメンバー構成は、臨床救急とHBOに関する重要課題を検証し、症例検討を通じて適切な治療法や解決手段の提示を行うのに長けた学術集団であった。分裂前の学会には無かった視点で事業を展開し、技師のみならず看護師を多く取り込んだ高気圧酸素治療認定技師講習制度の創設、潜水医学やHBO治療のみならず広い臨床的視点からの海洋関連医療・救急医学を取り入れたICMM（Immediate Care of Marine Medicine）コースの樹立、いわゆる健康気圧装置（Health Care Chamber）の使用実態を調査してその安全な運用の提言に繋げるためのmild HBO作業部会の立ち上げなどを行ってきた。このような実績を梃子に、新学会ではHBOの安全な実施と有効な臨床プロトコルの確立、減圧症の予防と効果的な治療体制の確立、本研究領域における人材育成などの展望について示し、学術団体としてのあるべき姿を論じたい。